

本の扉

11月号
2025. 11. 6

前橋東高校 図書委員会
2年2組・2年3組

ここ最近、朝晩が寒くなってきましたね。秋もいよいよ深まってきました。今こそ読書にぴったりの季節です！図書館も続々と新しい本が入ってきていますので、ぜひ足を運んでみてください。3年生の皆さんは受験シーズンに入り、なかなか読書をする時間がないかもしれませんが、勉強の合間の息抜きとして、ぜひ好きな本を読んでみてはいかがでしょうか。さて、今月もたくさんの本をご紹介します！



『人間失格』

(著者:太宰治 / 出版社:岩波書店)

太宰治の遺作である本作は、主人公・大庭葉蔵の手記という形で彼の生涯を追います。極度の人間恐怖に苦しみ、「道化」を演じることで周囲との関係を取り繕ってきた葉蔵は、やがて酒と女性に溺れ、破滅的な生活を送るようになります。自己との葛藤や社会との断絶をテーマに、人間が抱える不安と絶望を赤裸々に描いた私小説的傑作です。



『星の王子さま』

(著者:サン＝テグジュペリ / 出版社:岩波書店)

サハラ砂漠に不時着した飛行士が、遠い惑星から来訪した金色の髪の少年、王子さまと出会う物語です。王子さまの語る旅の経験や、彼が自分の星に残したバラへの思い、そしてキツネとの交流を通じて学んだ教訓が中心となり展開されます。「本当に大切なものは、目に見えない」という普遍的なメッセージが明確に示されており、愛や友情の真髄、また大人社会の盲点について深く考察させられます。



『アリス殺し』

(著者:小林 泰三 / 出版社:創元推理文庫)

この本は栗栖川 亜里(くりすがわ あり)がふしぎの国に迷い込んだ夢ばかりを見るようになったところから始まります。ある日、夢の中でハンプティ・ダンプティが墜落死しました。その後、現実で大学に行くと玉子というあだ名の研究員が転落し死亡していました。容疑者になってしまった栗栖川 亜里は冤罪を晴らすため同じ夢を見ているとわかった井森と、犯人探しのために奮闘する本格ミステリーです。



『失われたものたちの本』

(著者:ジョン・コナリー / 出版社:創元推理文庫)

この本は母親をなくし孤独に苛まれていた12歳のデイヴィットが、死んだはずの母の声に導かれ不思議な国に迷い込んでいくというお話です。その世界には、赤ずきんが産んだ人狼、醜い白雪姫、などおとぎ話の中の登場人物が住んでいました。そこでデイヴィットは母親を探し、元の世界へ戻るため旅を始めます。本にまつわる異世界冒険物語です。ぜひ読んでみてください。



『ナルニア国物語 I ライオンと魔女』

(著者:C・S・ルイス / 出版社:新潮社)



兄弟の末っ子であるルーシーが屋敷の衣装ダンスから異世界のナルニアへと迷い込んでしまいます。その世界では白い魔女によって冬の世界になっていました。そこで出会ったライオンのアスランとともに白い魔女を倒し、元の世界へ戻るため冒険が始まります。過ちを犯しても、それとどう向き合い償っていくかということを表しているお話になっています。



『絶唱』

(著者:湊かなえ / 出版社:新潮社)

1995年に起こった阪神・淡路大震災を軸とし、オセアニアにある小さな島のトンガという場所を舞台にした連作短編集です。それぞれ震災を巡る過去を持つ4人の『喪失』と『再生』が彼女達の心情と共に丁寧に描かれています。良い意味で湊かなえさんらしくない、後味がすっきりしていて、読了後には希望を持てるような作品です。



『BUTTER』

(著者:柚木麻子 / 出版社:新潮社)



男性3人の財産を奪い殺した容疑で逮捕された梶井真奈子という女性に、記者である主人公が取材をしに行き交流をしていく話です。これから刑を受けるにもかかわらず堂々としている彼女に主人公もその周りも、読者である私達も翻弄されていきます。真奈子は実在する死刑囚がモデルとされています。現代日本にあるルッキズムやミソジニー、偏見などに悩む女性にぜひ読んで欲しい作品です。



『汝、星のごとく』

(著者: 風良ゆう / 出版社: 講談社)

瀬戸内に住む高校生、井上暁海と京都から引っ越してきた高校生、青埜權。二人は、それぞれの母親に問題があり、複雑な家庭環境で育ってきました。出会った二人は、お互いに支え合って様々な困難を乗り越えていきます。高校生から成長し、また様々な問題に囲まれながら成長し、大人になっていく二人の人生が描かれているお話です。



『星を編む』

(著者: 風良ゆう / 出版社: 講談社)

「汝、星のごとく」で描かれなかったストーリーです。1つ目は、高校生時代からずっと暁海と權を支えてきた人物、北原先生の過去の話で、彼に何があったのかが語られます。2つ目は、權の漫画の担当編集であった植木さんと、小説の編集者であった二階堂さんの權に対する思いが語られています。3つ目は、權が亡くなったあとの、暁海と北原先生のお話です。



『滅びの前のシャングリラ』

(著者: 風良ゆう / 出版社: 中央公論新社)

1ヶ月後、小惑星が衝突し地球が滅びてしまう現代社会。学校でいじめられっ子の江那友樹、ヤクザの信士、友樹の母親であり、過去に恋人から逃げ出した静香。そして、歌手である、山田路子。人間社会が崩壊していく世界で、四人は、人々はどのように生きるのか。四人の過去も描かれ、地球が滅亡するまでの物語です。



貸出統計(9月1日～10月31日)

	1組	2組	3組	4組	5組	計	職員
1年	7	41	24	15	23	110	45
2年	123	13	24	22	5	187	
3年	16	21	40	7	12	96	
					合計	393	438